

長浜市森林ディレクション審議会（平成27年度第2回）要点録

【日時】 : 平成27年8月5日（水）9:30～12:10

【場所】 : 内保製材㈱「ふくらの杜」

【出席委員】 委員9人（敬称略）

特定非営利活動法人妙理の里 片山 由文

内保製材株式会社 川瀬 文明

長浜市伊香森林組合 高橋 市衛

滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 高橋 卓也

公募市民 藤井 克博

滋賀県猟友会北部有害鳥獣捕獲組合 藤田 和司

伊香具山友会 横関 隆幸

長浜市森づくりクラブ 横田 光代

滋賀県湖北森林整備事務所 南井 隆

市 3人

森林整備課 北川理事（事務局）

森林整備課 星野主幹（事務局）

森林整備課 花澤主幹（事務局）

【議事概要】

(1) 長浜市森づくり計画アクションプラン（素案）について

アクションプラン（素案）について事務局より説明

(2) 今後のスケジュールについて

第3回目の審議会の開催は、今後予定しているパブリックコメント、庁内調整、議会審議を経て、計画の内容に大きな変更があるか否かによって、会長と相談の上、判断する旨を説明し、了解を得た。

【議事録】

事務局：長浜市森林ディレクション審議会規則の規定に基づく会議成立の報告

長浜市の附属機関の会議等の公開に関する要綱に基づく公開について説明ののち、傍聴者数0人の報告

事務局：審議の前に北川理事より、ごあいさつ申しあげます。

北川理事あいさつ

事務局：審議会規則第6条第2項に基づき、会長による議事進行依頼

会長：本日は、朝からご参集いただきありがとうございます。

内保製材の川瀬さんには、このような会場を提供いただきありがとうございます。

それでは、次第に基づき事務局から説明をお願いします。

事務局：長浜市森づくり計画アクションプラン（素案）について、同資料に基づき説明。

会長：前回から大きく変わったのは、アウトカム指標を2点に集約したところとなります。

それでは、みなさんからご意見をお願いします。

委員：総論としては賛成します。

会長：私から一つ。アウトカム指標の示し方ですが、素材生産量2万 $\text{m}^3$ といわれても、一般の方にはぴんとこないのではないのでしょうか。直感的にわかる標記か内容に言い換えられませんか。また、将来の素材生産量の中には、バイオマスの分は入っていますか。

事務局：含まれています。

会長：5ページの「あるべき姿」において、下の森林部分のみにスポットが当たっている。伐採して、県外に出荷していくようにとれてしまう。上の部分、市内での利用、地産地消に焦点があたるようにするべきと思います。

委員：確かに、量だけを追求すると、皆伐に到り、森林の再生産に配慮しないイメージがつきまってしまう恐れがあります。

会長：再生産や環境に配慮した伐採に留意することを記しておくべきではないでしょうか。

事務局：森の成長量を併せて記すことで、伐採のみのイメージを相殺できると考えます。

委員：5000 $\text{m}^3$ のイメージがわからないのですが。

委員：おおむねですが、径30 $\text{cm} \times 4\text{m}$ の木3本で1 $\text{m}^3$ となる計算になると思います。

委員：家一棟建てると40 $\text{m}^3$ 、原木ベースだとこの倍近くの量になると思います。

委員：生産の現場の現状からして、2万 $\text{m}^3$ は現実的な目標なのでしょうか。

会長：2万の根拠は存在しますか。

事務局：県の計画における、年間12万 $\text{m}^3$ から、長浜市の量を計算したものです。

基本施策1～3を事務局から説明

委員：子ども長浜学事業は、小学校4年から6年生が対象とのことですが、大人は参加できませんか。

委員：13ページのおもちゃづくり、保育園において、指導者の下、親子で制作してもらったら、製品への愛着がわき、交流も図れていいのではないかと思います。

会長：今回の募集のスタイルはどのようなものでしょうか。

事務局：市産材の利用などを条件に公募型プロポーザル方式で募集しました。

会長：今後は、広く募集の広報がなされるようお願いします。

会長：フォレスターの招聘事業ですが、招聘の頻度が少なく、事業の狙いが絞れておらず、効果が薄い印象です。市単独でなく、他と団体と連携して招聘することも考えてはいかがでしょうか。

事務局：姉妹都市交流が発端となっている関係もあり、今回の成果を受け、次回以降検討していきたいと考えています。

委員：薪を欲している方々などに、市が山を指定して開放してあげると利用があるのではないのでしょうか。

事務局：自伐型林業事業の枠組みの中で、山林所有者と利用希望者を仲介するようなしくみが作れないか考えているところです。

基本施策4～6を事務局から説明

委員：薪などは、年間通して利活用があるのか、出荷ができるのかが鍵だと思います。年間通した活用にするため、「家庭用ボイラー」も補助対象にならないのでしょうか。県補助金や多賀町では対象にしていると思う。

事務局：今のところ、薪ストーブ、ペレットストーブ補助の実績が順調でもあり、補助対象とする予定はありません。

委員：葛籠尾崎はカワウ、海津大崎の崩落は獣害によるものだと思います。こういった目にあまりふれないところで起きていることのケアも大切ではないかと思います。

委員：駆除した獣肉の活用が図れていけば、猟友会の方、飲食業の方、獣害に悩まされている方の三方よしになるのではないのでしょうか。

委員：アウトカム指標における素材生産量がぴんときません。例えば、薪市場での出荷量など、市民目線で分かりやすい指標にしたほうが良いのではないのでしょうか。市民参加の森づくり、長浜市は活発な印象があるので、多くの団体の横のつながりが持てれば、効果が広がっていくのではないのでしょうか。

委員：グループの横の連携もそうであるし、行政間、担当者間の縦割りも改善していけばよりよくなっていくと感じます。

事務局より今後のスケジュールについて説明

12時10分 終了